

## キムホンさん（写真左）



キムさんは、アンコールワットがあるシェムリアップの若い日本語ガイドです。平成 25 年の第一回カンボジア支援ツアー団のガイドとして、シェムリアップからエコ村まで約 5 時間の行程を案内してくれました。その後のツアーも、毎回キムさんがガイドを務めてくれています。次第に親しくなりました。

車中のお話の内容は遺跡の説明だけではなくて、カンボジアの近代史やご自身の生き立ち、そして日本語ガイドの資格取得など多岐にわたっていました。そして、彼自身がカンボジア国を愛し、立派な国になることを願っていることが伝わってきました。

きっと、ガイドの中で日本人の観光客と接していろいろな言葉を教わるのでしょう。「僕はバツイチです。」そう聞いて驚きました。「バツイチ」なんて言う言葉は、日本人にとっては隠語でしょう。きっと、誰かが面白がって教えたのでしょうね。

シェムリアップのガイドは、試験を受けて国家資格を取らなければなりません。いつも着ているワイシャツはガイドのユニフォームです。彼は農家の大人数兄弟の何番目かで、お母さんにお金をねだって日本語学校に通ったと言います。かなりお金をかけたのです。でも、一度目は落ちてしまいました。お母さんに怒られて、いったんあきらめて、タイへ出稼ぎに行きました。タイで 2 年ほど左官屋さんの仕事をして、お金を貯めて、もう一度日本語ガイドに挑戦しました。今度は受かったのですが、何と受験料等が 7 万円くらいのところを、賄賂に 30 万円ほど使ったと言っていました。カンボジアは東南アジアで賄賂ワーストワンの国ですから。

カンボジアの近代史を聞いて驚きました。彼はポルポトが好きだと言うのです。カンボジア人を何百万人も虐殺したポルポトを。ポルポトに殺された人が大勢いる中で、ポルポトが好きだと言っていいのですか？と聞くと、日本語が分かる人がいないから良いと言い

ます。なぜ好きなのかと聞くと、ポルポトは強かった。ベトナム兵を追い出したからと言いました。カンボジアは国土をタイとベトナムの強国に囲まれて侵略され続けてきました。アンコールワット遺跡のあるシェムリアップ市の名前は、シャム（タイ）を追い出したと言う意味だそうです。だから、生き残るにはどこかの国の力を借りなければなりません。そのためにフランスの植民地になる道を選び、ベトナム戦争ではアメリカと北ベトナムの間に挟まれて空爆により大きな被害を受け、アメリカが撤退すると、ソ連と結ばれたベトナムに対抗するために、中国の力を借りたのでした。車中からの街の風景を見ると、あちこちに中国の資本が入っていることを垣間見ます。

彼も、もう一人の日本語ガイドの通称イシダさんもベトナムをひどく嫌っていることが伝わってきました。ベトナム人はポルポトを倒すためにカンボジアに攻め込んできて、戦争が終わっても帰っていかない。しかも、ベトナムとカンボジアの国境は田圃なので、少しずつカンボジア側に国境が動いていると言います。その上に、今の首相は内戦の終結にベトナムの力を借りたので、いずれそれを返さなければならない。憤懣やるかたないと言う感じでした。カンボジアは密告の国なので、反政府的な発言をすると投獄されてしまいます。選挙の時に大規模な停電があって、電気が通じると与党が勝っていたと言います。力の強いものが何でもできる国と言います。日本を羨ましがっていました。

前の席に座ってキムさんと二人で話しました。カンボジアをどのような国にしたいですか。そう聞くと、汚職のない国にしたいという言葉が返ってきました。それには、何が重要ですかと聞くと、教育だと言います。第一回支援ツアーでエコ村のナチュラル小学校に入った時に、教室に黒板がなくて代わりにベニヤ板を使っていました。ツアー団でホワイトボードを買ってあげましょうと言うと、彼はマーカーを寄付すると言ってくれました。それを思い出しました。

1994年に円福友の会で建設したプレイクチェイ小学校やタプル小学校はその後の補修が悪くて、屋根に穴があいて雨漏りし、白アリは教室にアリ塚を作るほどに繁殖して、壁板が白アリ被害で損傷していました。キムさんに聞きました。カンボジアでは学校が壊れても補修しないのですか、傷みも小さなうちに補修すれば簡単で、校舎は長く使えます。そう聞くと、「そんなことはないです。僕が小学校の時に壁を壊したら校長先生に強く怒られて、お父さんが壊れた壁を直してくれました。」と話してくれました。キムさんが通った学校では、『学校を補修します』と校長先生がふれを出すと、周囲の人が集まって校舎の傷みを直したのです。

キムさんが左官屋さんの経験があることを聞いていたので、時間をとってホテルのロビーで相談しました。校舎の建築ができますかと聞いてみました。するとできると言います。仲間に呼びかけると言います。しかも、周囲に山があれば、材木は安く手に入ると言います。おじさんが大工さんで、家をつくる専門家と言います。円福友の会でナチュラル小学校に建てたトイレはいくらかかったかと言うので、約40万円と言うと、それだけお金をかければもっといいトイレを作れると言います。屋根瓦が20年で壊れてしまうのはなぜかと

聞くと、瓦の値段が安いからと言います。一枚 100 リエル以下と言ったような気がします。(4000 リエルが一ドルです。) 建築の知識があることが分かりました。

話の中で、悪いカンボジア人と良いカンボジア人という言葉が何度も出てきました。賄賂をとったり、校舎建築で、お金をピンはねしたり、作ってもらった校舎を大切にしないカンボジア人は悪いカンボジア人なのです。カンボジア人は決してそのような人だけではない。約束は守るし、いただいたものは大切に使うし、働く。良いカンボジア人はたくさんいる。そう話してくれました。キムさんは良いカンボジア人なのです。信頼できるのです。そう思いました。日本人から聞く、カンボジア人の寄付依存症とは本当なのだろうかとも思いました。

キムさんの人柄を知り、建築の知識を聞き、キムさんにかけてみようかという思いが増しました。それで、一月末に一人でカンボジアへ行くことを約束しました。キムさんには、学校と連絡をとって、話し合いの席を設けるよう、予定を組んでもらうことをお願いしました。SVAと同行したこれまでの訪問では、学校関係者と話す時間が 10 分ほどしかなくて、校舎がこうになった理由は何も分からず、ただ校舎が傷んで使えなくて困っているから、建ててくれ建ててくれという言葉しか返ってこなかったのです。これでは、カンボジア人の寄付依存症の悪い印象しか得られませんでした。

地元の人と心を開いて話し合うために、親しくなるにはどうしたら良いでしょう。私は、一緒に食事をするをお願いしました。カンボジアの風習はどうなのでしょう。このような時にお土産を持っていくのでしょうか。キムさんに聞くと持ってきてくださいと言います。日本のお菓子(「おびんずるさん」のお饅頭)を持って行きました。

この時の訪問の様子は三月号に書きました。

キムさんに校舎建築のお金の支払いはどうするのですかと聞きました。日本では契約の時に三分の一、建て前の時に三分の一、完成の時に三分の一支払うのですよと言うと、カンボジアでも同じと言いました。建て前の儀式もするのだそうです。乾季の 2 月に着工予定と聞いたのが、連絡が途絶えてやきもきしていると。5 月 30 日にシェムリアップを出発する写真とメールが届きました。ようやく着工です。お金がたくさんかかり建設費の四割を送って欲しいと言うので、6 月 9 日ころにキムさんの口座に約 2 万ドルを送金しました。

建設の様子が写真で送られてきます。どこからどのように調達したのか、ブルトーザーやダンプカーやコンクリートミキサーなどの重機が使われています。コンクリートの基礎工事ができて、その上に土盛りをして、レンガが積まれています。着々と進む工事の様子に驚き、毎日報告を楽しみにしています。







たった一人のカンボジア人の知人の日本語ガイドのキムさんを信頼して、契約書も交わさず、メールのやり取りだけでここまで進みました。とっても嬉しいです。11月の校舎竣工式が待ち遠しいです。